

大阪大学グローバル COE プログラム「コンフリクトの人文国際研究教育拠点」
「音楽の生産・流通・消費におけるコンフリクト」プロジェクト研究会

日 時：12月18日（金）16:20～17:50

場 所：大阪大学豊中キャンパス 文学部ドイツ文学研究室
<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/access/toyonaka.html>

講 師：太田峰夫氏（東京大学大学院人文社会系研究科助教）

論 題：19世紀ハンガリー市民社会におけるツィンバロムの「受容史」について

概 要：

「民族楽器（national instrument（英）・nemzeti hangszer（洪））はしばしば、当該の「民族」の文化アイデンティティを体現するものとして素朴に理解される。しかしながら、伝統楽器がそのようなステータスを獲得していく歴史的なプロセスは、それほど単純なものではない。この点についての一つのケーススタディとして、今回の発表ではハンガリーの「民族楽器」ツィンバロムについて考える。それがどのように「発見」され、ハンガリーの文化ナショナリズム運動へと組み入れられていったのかを、ここでは楽器の「改良」や教科書の出版などに言及しつつ、論じることとしたい。

太田氏は、今年バルトークとその歴史的背景に関する論文により、博士号を取得した気鋭の研究者です。楽器の話題ですが、文化史全般に共通する問題を孕んでいると思われるので、皆様、是非ご参加ください。

問い合わせ先：

大阪大学大学院文学研究科音楽学研究室（伊東信宏研究室）

Tel 06-6850-5121 e-mail: ito:let.osaka-u.ac.jp